

復興象徴のチンゲンサイ ～法人立ち上げハウス再建～

名取市下増田の北釜地区は東日本大震災の津波で大きな被害を受けた。震災前に109世帯あった同地区では、離農した人も多く、営農を再開できた農家は少ない。

こうした中、被災農家7軒で立ち上げた(株)名取北釜ファームは、被災した約8.3ヘクタールの農地にビニールハウス144棟を再建して野菜の栽培を再開している。主な品目はチンゲンサイ、コマツナ、ユキナ、サントウナ等だが、特に力を入れているのが「チンゲンサイ」だ。

チンゲンサイのパックはS、M、Lの3種類があり、20パック約5キロの箱で月に約200個を主に仙台、山形方面の商圏に出荷する。栽培に化学肥料を使用していないのが大きな特徴だ。

また、かつて地域ブランドメロンとして有名であった「北釜クイーン」も復活し、2年目の収穫に期待が寄せられている。

同社の鈴木更治社長（78歳）は「事業自体は軌道に乗ったが、一番の課題は商品栽培で培ってきたノウハウを次世代に伝えてゆくことです。栽培・管理については、あえて若い担当者の自主性に任せ、時折、助言するようにしています」と語り、額の汗を拭いながら、近くで働く若い職員に目を細めていた。



【記事提供：名取市農業委員会】